

第 4 期
若手エンジニアのグローバル化に向けた海外研修
実施報告書

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
平成 29 年度
技術委員会

目次

1.はじめに.....	3
2.参加者	4
3.プログラム全体スケジュール.....	6
4.事前説明会	7
5.壮行会	7
6.研修内容.....	10
7.プレゼンテーション報告会.....	17
8.その他	24

1.はじめに

近年のアプリケーションはグローバルなクラウドプラットフォーム上で稼働を前提とし、音声／対話型のアプリなど AI (Artificial Intelligence) を応用した新しいテクノロジー視点でのアプリ開発が求められる時代となりました。

こうした状況では新しい開発環境について、いち早く学ぶために英語の壁に躊躇することなく技術情報の取捨選択に挑めるエンジニアの育成が急務です。これからの世界を支えてゆくエンジニアリングはオープンな環境において、グローバルスタンダードに則った創造性が求められております。

これらを受け、技術委員会では次世代を担うエンジニアを創出すべく、失敗を恐れず能動的なワークスタイルを持ち、グローバルな観点から世界中の技術情報を精査し創造的な取組にチャレンジできる能力を促すための研修講座を企画しました。本研修講座も第4期を迎え、帰国後に見違えて変貌を遂げるエンジニアも現れ、既参加者によるコミュニティ活動も始まりつつあります。

研修コンテンツも英語生活の中で異文化コミュニケーションや米国での多人種間でのワークスタイルを体験することで参加者のダイバーシティな感覚や見識を養えるようブラッシュアップしております。また、米国での IT テクノロジーの最新動向や米国エンジニアとの交流を通じてエンジニアとしての教養を深めることにも配慮しております。渡米時の研修のみならず、帰国後には経営層に向けた英語でのプレゼンテーション報告を行うことでエンジニアに不足しがちなプレゼンスキル向上にも役立つはずです。

本企画では 1 社のみでは海外研修が実現困難な会員企業においても参加可能になるメリットだけでなく、自社以外のエンジニアとの共同生活からコミュニケーションスキルやヒューマンリレーションの形成にも貢献できるようにと考慮しました。

参加を配慮していただいた企業側にも多くのメリットを提供できるものと祈念しております。エンジニアの成長の歩みを劇的に促すことは難しいですが、これからの業界を担う人材が飛躍的に成長を遂げるためのきっかけを本研修が与えられると信じております。

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
技術委員会 委員長
田中 啓一

2.参加者

1) 研修参加者

13社・団体 24名（順不同）

氏名	所属
松原 英徳	株式会社大和コンピューター
西尾 慎祐	株式会社タイムインターメディア
根岸 靖人	株式会社アルゴグラフィックス
阿部 真木	株式会社アルゴグラフィックス
金子 麻里子	株式会社フォーラムエイト
外村 剛久	株式会社フォーラムエイト
後藤 巧実	株式会社フォーラムエイト
中野 真衣	株式会社フォーラムエイト
竹石 隆道	株式会社 CRAVA
山畑 務	ニュートラル株式会社
佐藤 慶一	創研情報株式会社
山崎 美沙	日本事務器株式会社
土器 一徳	日本事務器株式会社
矢口 貴之	日本事務器株式会社
潘 承龍	株式会社インテリジェント ウェイブ
本多 健太	株式会社インテリジェント ウェイブ
高橋 一巨	株式会社インテリジェント ウェイブ
中原 正貴	株式会社インテリジェント ウェイブ
神林 博幸	株式会社インテリジェント ウェイブ
佐藤 杏	株式会社インテリジェント ウェイブ
小部 裕一	株式会社ミクロスソフトウェア
鈴木 義治	株式会社オープンストリーム
勝又 星利奈	株式会社コスモ・コンピューティングシステム
若生 静香	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会

2) 技術委員会：8社9名（順不同）

委員長：田中 啓一 [日本事務器株式会社 代表取締役社長]

委員：山本 祥之 [株式会社インテリジェント ウェイブ 特別顧問]

：藤井 洋一 [日本ナレッジ株式会社 代表取締役社長]

：原山 健一 [BB ソフトサービス株式会社 取締役副社長 兼 COO]

：大塚 桂一 [インテル株式会社 執行役員 営業本部 本部長]

：佐野 勝大 [株式会社ユビキタス 代表取締役社長]

：小瀬 充 [株式会社ラネクシー 取締役 管理本部長 兼 新潟開発センター担当]

：岡澤 耕 [トレンドマイクロ株式会社副社長補佐 兼 日本地域事業推進担当シニア
ディレクター プロジェクト推進室 室長]

：松田 貴成 [インテル株式会社 技術本部統括部長]

3) 研修事業者

－株式会社コスモ・コンピューティングシステム

－Cosmo ITS .Inc

3.プログラム全体スケジュール

スケジュール			
年	月	日	実施イベント
2017	6	16 (金)	参加者募集開始
	9	8 (金)	参加者募集締切
	10	3 (火)	参加者事前説明会 - パスポート等の取得手続きを参加者自身で実施
		19 (木)	壮行会実施 - 参加者間の相互交流を実施
	10	28 (土)	研修開始 - 米国ロサンゼルスにて実施
	11	5 (日)	※研修期間中にグループ毎にプレゼン作成 研修終了 - 帰国
	11	24 (金)	プレゼンテーション報告会
	12	13 (水)	CSAJ 理事会での実施報告

4.事前説明会

1) 実施概要

- 日時：平成 29 年 10 月 3 日（金） 16:00～18:00
- 場所：CSAJ 会議室

2) 参加者

- 研修参加者：20 名（4 名欠席）
- 研修事業者：株式会社コスモ・コンピューティングシステム 2 名
- 前年度参加者：2 名

3) アジェンダ

- ・海外研修に関する説明
 - 研修参加の事前に自身で行う渡米手続きや各種準備に関する説明
- ・全体スケジュール
 - 研修終了後にプレゼンテーション報告会を行う等のスケジュール説明
- ・質疑応答

5.壮行会

1) 実施概要

- 日時：平成 29 年 10 月 19 日（木） 17:00～20:00
- 場所：CSAJ 会議室

2) 参加者

- 研修参加者 23 名（1 名欠席）
- 技術委員会：委員 2 名
 - 委員長：田中 啓一（CSAJ 副会長／日本事務器株式会社）
 - 委員：山本 祥之（CSAJ 副会長／株式会社インテリジェント ウェイブ）
- 研修参加上席者：4 名
- オブザーバ：2 名
 - 杉本 淳一（CSAJ 理事／株式会社コスモ・コンピューティングシステム）
 - 小山 忍（株式会社コスモ・コンピューティングシステム）
- 事務局：1 名
 - 鈴木 啓紹（CSAJ 業務課）

3) アジェンダ

- ・ 委員長挨拶：田中委員長（CSAJ 副会長）
- ・ 海外研修に関する説明
- ・ 参加者自己紹介：1名1分（名前、所属、担当業務、性格分析）
- ・ 懇親会
- ・ 中締め 山本委員（CSAJ 副会長／人材委員長）



田中啓一 技術委員長挨拶



真剣な表情の参加者たち



自己紹介風景 1



自己紹介風景 2



杉本理事からの激励



田中委員長による乾杯発声



懇親会風景



山本副会長による中締め



全体写真<技術委員、研修参加企業の皆様と研修参加者>

委員長からのご挨拶に始まり、参加者各々が全員の前で自己紹介を行いました。終了後には懇親会を行い研修参加各位同志の交流を深め、技術委員会委員からのアドバイス等を受けつつ出発前の研修者同士の親睦が図られました。

6.研修内容

1) 研修概要

－日時：平成 29 年 10 月 28 日(土)～11 月 5 日(日)9 日間

－場所：ロサンゼルス市内 Torrance Residence Inn

2) 研修実施スケジュール概要

行程	研修項目/場所	内容
10月28日 DAY1	ロサンゼルス到着 研修施設入 オリエンテーション	グループ分け、日程・宿泊・食事・外出などの説明、 携帯電話貸与、質疑応答など
10月29日 DAY2 終日研修	英語グループレッスン	Greeting,Self-introduction,Getting Acquainted
	アメリカ先進技術講義	InterBusiness Corporation 社 Noguchi 氏 1. Digital transformation & Chief Digital Officer 2. グーグルの AI 戦略 3. 日米におけるバリューシステムの違い
10月30日 DAY3 終日研修	英語グループレッスン	屋内授業(1)
	英語ハンズオンラーニング DEL AMO FASHION CENTER	屋外活動 各グループに分かれて、講師と屋外に出て課外活動
	英語グループレッスン	屋内授業(2)
10月31日 DAY4 終日研修	企業訪問(1)	訪問先：FUJITUSU GLOVIA INC. 社内見学、GLOVIAOM、富士通における研修プログラムの紹介
	企業訪問(2)	訪問先：Google Venies 内部エンジニアによる働き方の説明、意見交換。企業内でのエンジニアの WorkStyle 見学など
	企業見学	Yahoo、YouTube など
	Coworking Space 見学	CTRL COLLECTIVE (コワーキングスペース) 見学、スタートアップ企業との意見交換
11月1日 DAY5 終日研修	アメリカ先進技術講義	UI/UX Developer・Product Designer/Jordan 氏 スマートデバイスの UI/UX 設計・開発を専門とする Jordan 氏によるアメリカでの開発手法やフィロソフィーについての講義

	アメリカ先進技術講義	Back-end Developer/Lauren 氏 バックエンド設計・開発を専門とする Lauren 氏によるアメリカの開発手法やフィロソフィーについての講義
	アメリカ先進技術講義	グループごとに分かれ、アジャイル開発の手法について Jordan 氏、Lauren 氏と手を動かし学ぶ
	英語フィールドトリップ	California Science Center 見学
11月2日 DAY6	自由行動	
11月3日 DAY7 終日研修	UCLA NASA JPL 先進技術講義	講師：NASA JPL Ishimatsu 氏 NASA ジェット推進研究所 (Jet Propulsion Laboratory) に勤務するエンジニアによる火星探査技術とアメリカでの暮らしについて
	UCLA フィールドトリップ	大学内の IT 環境・施設見学、日本人留学生の研究についてなど
	グローバルビジネス	異文化コミュニケーション/グローバルビジネス講義：元 Unisys 社 Yamaguchi 英語講義含め、外国人エンジニアと仕事をするために必要なことや、グローバルエンジニアになるために必要なものなどを講義
	成果報告会	成果発表・報告会
11月4日 DAY8	ロサンゼルス出国	
11月5日 DAY9	帰国	

3) 研修風景



Day1 到着後のオリエンテーション



Day1 Welcome night



Day2 英語グループプレッスン 1



Day2 英語グループプレッスン 2



Day2 米国における IT ビジネス講義
InterBusiness Corporation 社 Noguchi



Day3 英語グループレッスン1



Day3 英語グループレッスン2



Day3 英語レッスン 講師と研修生の集合写真



Day4 企業訪問：FUJITSU GLOVIA, INC.



Day4 Startup Venture's Speech



Day5 UI/UX Developer/Jordan



Day5 Back-end Developer/Lauren



Day5 アジャイル開発の疑似体験



Day5 Sience Center 訪問



Day5

USC 構内にて講師と集合写真

Day6 自由行動



Day7
UCLA IT 技術講義
NASA JPL/Ishimatsu



Day7
グローバルビジネス講義
元 Unisys 社 Yamaguchi



Day7
UCLA 日本人留学生のスピーチ



DAY7
UCLA フィールドトリップ



Day7
UCLA フィールドトリップ



DAY7
成果報告会



Day7
成果報告会後の懇親会



DAY7
けん玉で中締め



Day8

Residence Inn 前にて研修生一同

米国ロサンゼルスでの英語生活を経験し、コミュニケーションスキルの座学／実践トレーニングだけでなく、米国における IT 最新動向の技術講義、NASA に勤務する日本人からの技術講義やアメリカで働く人たちの講義を受けるなど、様々な体験が行われ、参加者は刺激を受けた様子だった。

7.プレゼンテーション報告会

1) 実施概要

－日時：2017年11月24日（水）14：00～17：00

－場所：市ヶ谷健保会館会議室

研修時に決まったグループ別の実施チーム（5チーム：@4～5名）を単位にチームプレゼンテーションを実施した。各チームともタイムキーパ／投影資料作成／プレゼンター等の役割分担を行い、研修で学んだ事を、英語を交えたプレゼンテーションでCSAJ技術委員会の委員等の経営層クラス、自社の上司クラス、第1期／第2期研修参加者の聴講者を前に発表を行った。

聴講側と発表側の活発な質疑応答が進められ、アンケートによる評価報告がなされた。

2) 進行表

- ・技術委員長挨拶
- ・海外研修企画の概要説明
- ・参加者5チーム（全24名）によるチームプレゼンテーション（1チーム15min）

以下、プレゼンテーション構成

－参加者（チーム）紹介

自己紹介の実施。

－各日の研修内容／研修生活で学んだ事(英語プレゼン含)

スケジュールに沿った自由説明。英語でのプレゼン箇所は各チーム自由

－今後の目標（英語プレゼン）

スライドは日本語、プレゼンは英語で実施。

－聴講者との質疑応答（2～3min）

- ・プレゼンテーション順

チームD → チームE → チームA → チームB → チームC

3) 聴講参加者：31名

- ・技術委員会：4名

委員長：田中 啓一 委員：山本 祥之、小瀬 充、松田 貴成

- ・オブザーバ：12名

井関 司、佐々木 雅章、岡田 智義、大城 徳夫、本多 航、藤原 博文、
阪本 浩朗、香月 蔵人、荻野 時宏、芝村 健太、杉本 淳一、小山 忍

- ・第1期研修参加者：2名

豊吉 隆太、戸島 拓弥

・第2期研修参加者：1名

田村 英明

・第3期研修参加者：4名

安田 敬司、飯塚 恭弘、渋谷 智哉、高 健

・事務局：4名

専務理事：笹岡 賢二郎、事務局長：原 洋一

鈴木 啓紹、澤口 瑠璃



田中委員長挨拶



聴講風景

4) プレゼンター（研修チーム）

◆グループA

根岸 靖人 / 株式会社アルゴグラフィックス

中原 正貴 / 株式会社インテリジェント ウェイブ

西尾 慎祐 / 株式会社タイムインターメディア

外村 剛久 / 株式会社フォーラムエイト

若生 静香 / 一般社団法人コンピュータソフトウェア協会



◆グループ B

- 神林 博幸 / 株式会社インテリジェント ウェイブ
- 勝又星利奈 / 株式会社コスモ・コンピューティングシステム
- 山畑 務 / ニュートラル株式会社
- 後藤 巧実 / 株式会社フォーラムエイト
- 小部 裕一 / 株式会社マイクロソフトウェア



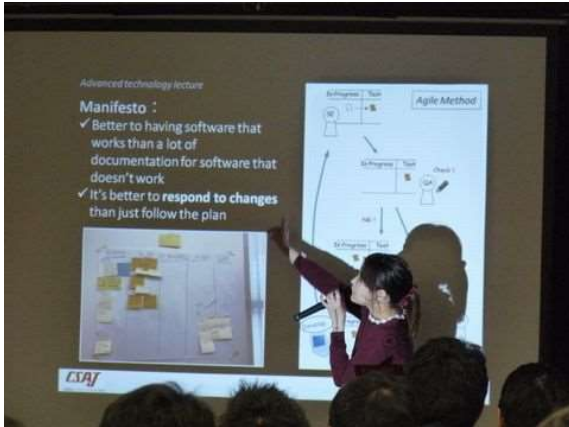
◆グループ C

- 阿部 真木 / 株式会社アルゴグラフィックス
- 潘 承龍 / 株式会社インテリジェント ウェイブ
- 中野 真衣 / 株式会社フォーラムエイト
- 山崎 美沙 / 日本事務器株式会社
- 鈴木 義治 / 株式会社オープンストリーム



◆グループ D

- 佐藤 杏 / 株式会社インテリジェント ウェイブ
- 本多 健太 / 株式会社インテリジェント ウェイブ
- 竹石 隆道 / 株式会社 CRAVA
- 矢口 貴之 / 日本事務器株式会社
- 金子麻里子 / 株式会社フォーラムエイト



◆グループ E

- 高橋 一巨 / 株式会社インテリジェント ウェイブ
- 佐藤 慶一 / 創研情報株式会社
- 松原 英徳 / 株式会社大和コンピューター
- 土器 一徳 / 日本事務器株式会社



5) 懇親会（コミュニティ活動）

報告会終了後は懇親会を実施、研修参加者だけでなく、技術委員、過去第1期～第3期参加者、さらに報告会に出席した各社の上席も含め、幅広い交流が行われ、今後の目標などの話題で盛り上がった。



山本委員乾杯



懇親風景 1



懇親風景 2



懇親風景 3



結果発表



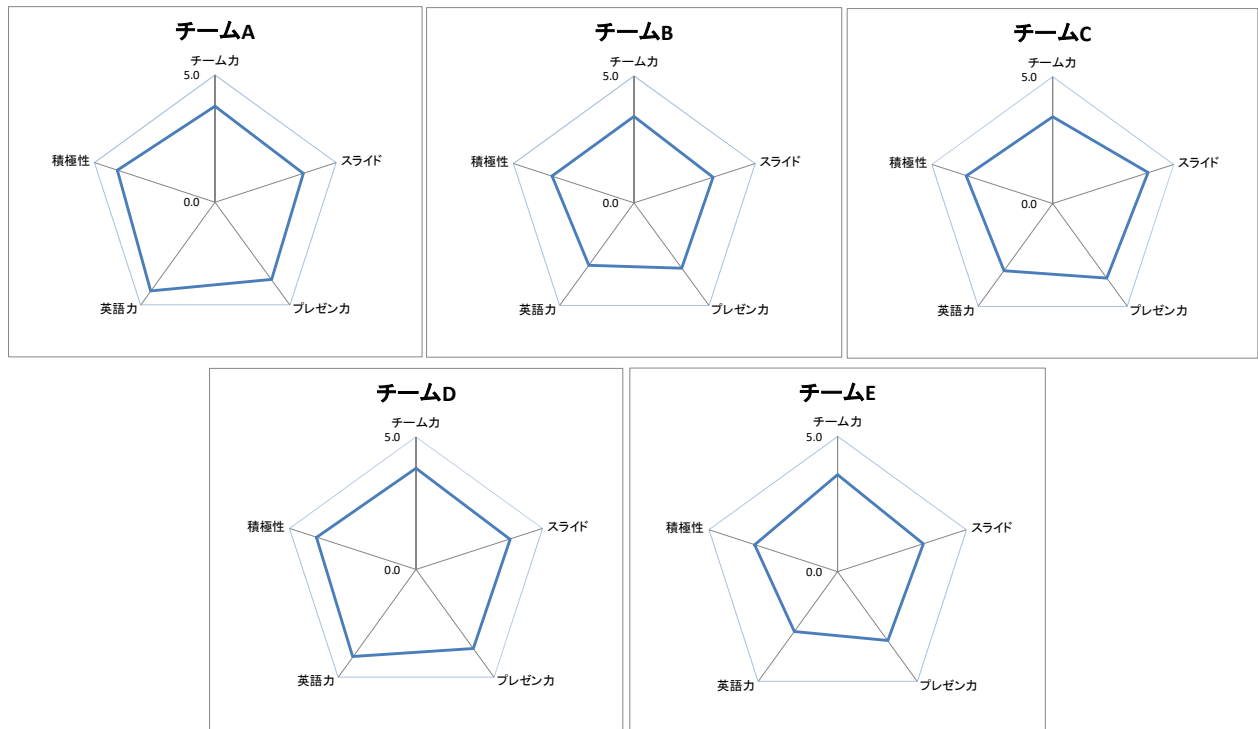
松田委員中締め

6) プレゼンテーション採点結果

プレゼンテーション報告会では、聴講者（技術委員・オブザーバ・過去参加者）が、各チームのプレゼンテーション内容について、5項目で採点を行い、以下のとおりの結果となった。

■海外研修参加者プレゼン報告会のアンケート評価

設問項目 チーム名	設問1(最高25点)					設問1合計	設問2
	チーム力	スライド	プレゼン力	英語力	積極性		
チームA	3.8	3.6	3.8	4.3	4.0	19.5	3.3
チームB	3.4	3.3	3.2	3.0	3.4	16.3	2.7
チームC	3.4	4.0	3.6	3.3	3.6	17.8	3.0
チームD	3.8	3.7	3.7	4.0	4.0	19.2	3.3
チームE	3.6	3.3	3.1	2.7	3.2	16.0	2.6



■ アンケート個票

1. プレゼンテーションについて、下記の項目から選択して○で囲んでください。

	チーム力 チームの協力関係などの視点	スライド スライドの見易さや伝わりやすさなどの視点	プレゼン力 (巧みさ) 説明手法などをみた場合のプレゼンの巧みさ	英語力 プレゼン内での英語表現についての伝わりやすさ	積極性 (意気込み) プレゼンに対する意気込み (積極性)
チーム名	高 ← 評価点 → 低	高 ← 評価点 → 低	高 ← 評価点 → 低	高 ← 評価点 → 低	高 ← 評価点 → 低
チーム A	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

2. 以下の設問の選択肢に☑をいれてください。

総合評価	チーム A	<input type="checkbox"/> とても良い (4) <input type="checkbox"/> 良い (3) <input type="checkbox"/> 普通 (2) <input type="checkbox"/> 頑張れ (1)			
		感想/指摘			

8.その他

○厚生労働省「平成 29 年度 人材開発支援助成金（旧称：キャリア形成促進助成金）」の利用

・制度概要

職業訓練などを実施する事業主等に対して訓練経費や訓練中の賃金を助成し、労働者のキャリア形成を効果的に促進。

※ 事業主にあつては、事業内職業能力開発計画・年間職業能力開発計画を作成するとともに、職業能力開発推進者を選任することが必要

※ 事業主団体等にあつては、訓練実施計画を作成することが必要

※ 特定訓練コース 1 コースあたり 30 時間以上の訓練が対象

○人材開発支援助成金

訓練関連	
特定訓練コース	<ul style="list-style-type: none"> ・労働生産性の向上に直結する訓練(新規) ・雇成型訓練 ・若年労働者への訓練 ・技能承継等の訓練 ・グローバル人材育成の訓練
一般訓練コース	上記以外の訓練

制度導入関連	
キャリア形成支援制度導入コース	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフ・キャリアドック制度 ・教育訓練休暇等制度
職業能力検定制度導入コース	<ul style="list-style-type: none"> ・技能検定合格報奨金制度 ・社内検定制度・業界検定

■訓練関連の助成額・助成率

支給対象となる訓練		賃金助成 (1人1時間当たり)		経費助成		実施助成	
			生産性要件を満たす場合		生産性要件を満たす場合		生産性要件を満たす場合
特定訓練コース	Off-JT	760円 (380円)	960円 (480円)	45% (30%)	60% (45%)		
	OJT					665円 (380円)	840円 (480円)
一般訓練コース	Off-JT	380円	480円	30%	45%		

■受講数の制限（特定訓練コース・一般型訓練コース）

助成対象となる訓練等の受講回数は、1人当たり1年度※3回まで。

■1事業所・1事業主団体等の支給額

雇用型訓練コース・重点訓練コース・一般型訓練コース

- ・1事業所が1年度※1に受給できる助成額は、最大で500万円※2
（認定職業訓練、雇用型訓練コースの場合または含まれる場合は、1,000万円）

- ・1事業主団体等が1年度に受給できる助成額は500万円

※1 支給申請日を基準とし、4月1日から翌年3月31日まで

※2 各コースの助成額を合計した上限額です。1事業主が単独で申請したうえで共同事業主として申請する場合も500万円が限度。また、制度導入コース分の支給額は当該上限には考慮しない。

<グローバル人材育成訓練の解説>

成長分野や海外関連業に従事する人材育成のための訓練。

※海外事業拠点での事業展開、海外への販路開拓、販売網の拡大、輸出、海外の企業との提携・合併などの海外事業を実施するに当たって生じる、① 海外生産・事業拠点における管理業務、② 海外市場調査、③ 提携、販売などの契約業務④ 国際法務など海外事業に関連した業務を指す。

訓練対象者	雇用保険の被保険者
基本要件	<ul style="list-style-type: none"> ●Off-JTにより実施される訓練であること （事業主自ら企画・実施する訓練、または教育訓練機関が実施する訓練） ●実訓練時間が30時間以上であること ●海外関連の業務を行っている（計画を含む）事業主が、労働者に対して実施する海外関連の業務に関連する訓練であること
実施訓練例	<ul style="list-style-type: none"> ●語学力・コミュニケーション能力向上のための講座などの受講 ●リーダーシップ、文化理解などグローバルな行動特性を養成するための講座などの受講 ●国際法務、国際契約、海外マーケティング、地域事情に関する講座などの受講

○利用実績

- ・本研修講座は上記の助成金適用対象として構成し、参加企業による個別対応で申請を行った。
- ・個別対応の申請に際しては個別サポートを実施した。
- ・利用企業：8社